

二日目講義概要

1. 小学校実践報告①・質疑応答・意見交換

阿部志乃氏（横須賀学院小学校教諭）

2. 小学校実践報告②・質疑応答・意見交換

大谷陽子氏（奈良教育大学附属小学校教諭）

3. 中・高校（英語）実践・質疑応答・意見交換

末岡敏明氏（東京学芸大学附属小金井中学校教諭）

4. 中・高校（国語）実践・質疑応答・意見交換

小宮高弘氏（埼玉県立大宮中央高等学校教頭）

講義概要

1. 小学校実践報告① 阿部志乃氏（横須賀学院小学校教諭）

「国際交流プロジェクトで学んだ小学生の外国語に対する気づき」

外国語を学ぶ実用性を日常的に感じることをしない小学生にとって、学習に対する意欲を高めるためには、その言語を使う経験を通じた「面白さや楽しさ」と、使う「必要性」を感じさせることが大切です。そしてそれらは、将来の外国（語）に対する意欲にも大きく影響すると考えています。では、その必要性を設定するにはどうしたらいいのでしょうか。

今回のワークショップでは、実際に3年生以上で行なっているプロジェクト学習において外国語を使った「面白さや楽しさ」と「必要性」について報告します。それらの活動で学習した児童の外国語に対する気づきについても紹介し、小学校英語教育についてみなさんと考える時間となれば、と考えています。

2. 小学校実践② 大谷陽子氏（奈良教育大学附属小学校教諭）

小学生の子どもたちが、将来出会うだろう未知の外国語やその背景にある文化に対して、どんな姿勢や思考でアプローチできるようになってほしいか……。それを考えたときに、小学校外国語活動で大事にしたい学びが「子どもたちの母語をよりどころにした多言語活動による『ことばへの気づき』」です。この気づきをさまざまな視点から生

み出す実践を重ねてきました。

本校の子どもたちの母語は日本語です。日本語をもとに他の言語を対比させることで、はじめて出会う言語に日本語との共通点や相違点を見つけ、そして母語である日本語のしくみが意識化される子どもたちは、ときには驚き、ときには感心し、そして言語を学ぶおもしろさを味わいます。今回、みなさんとそんな体験ができればと思います。

3. 中・高校（英語）実践 末岡敏明氏（東京学芸大学附属小金井中学校教諭）

「赤い」は「形容詞」で、「緑の」は「名詞+助詞」です。たしかにそうなのですが、現実に「緑のセーター」と言うべきところを「緑いセーター」と言うてしまうようなことがない人に向かって、そんな説明をする必要があるのでしょうか。もっと話を広げると、なぜ「品詞」などというものを考える必要があるのでしょうか。

学校の教室で大切なのは「品詞論」より「品詞感覚」です。今回のワークショップでは、「『論』より『感覚』」をキーワードに、教室で「ことば」を扱うときのポイントを考えます。うどんやおそばを食べながらでも楽しめる気楽な話題を取り上げますのでお楽しみに（実際にうどんやおそばが出るわけではありません）。

4. 中・高校（国語）実践 小宮高弘氏（埼玉県立大宮中央高等学校教頭）

母語教育の観点を取り入れた新しい「ことば」の教育の軸足を新学習指導要領（案）の新しい教科・科目のどこに置くのかということを考えておくことは重要です。国語の科目構成は総入れ替えになることが予想されており、例えば共通必修（二科目）の「現代の国語」なのか、選択必修の「論理国語」「国語表現」なのかによって、その効果は全く異なってくるでしょう。また、英語科と国語科の両方の視点をもってことばの授業を行なえる優れた教師の存在を想定するより、英語科と国語科の科目をどのようにブリッジするかを考えることの方が現実的だと思われます。

今回は、「学校設定教科・科目」制度を利用した、本校の『教科「言語」、科目「言語探究」』の取組を紹介しながら、具体的なことばの教育実践を考えていきます。